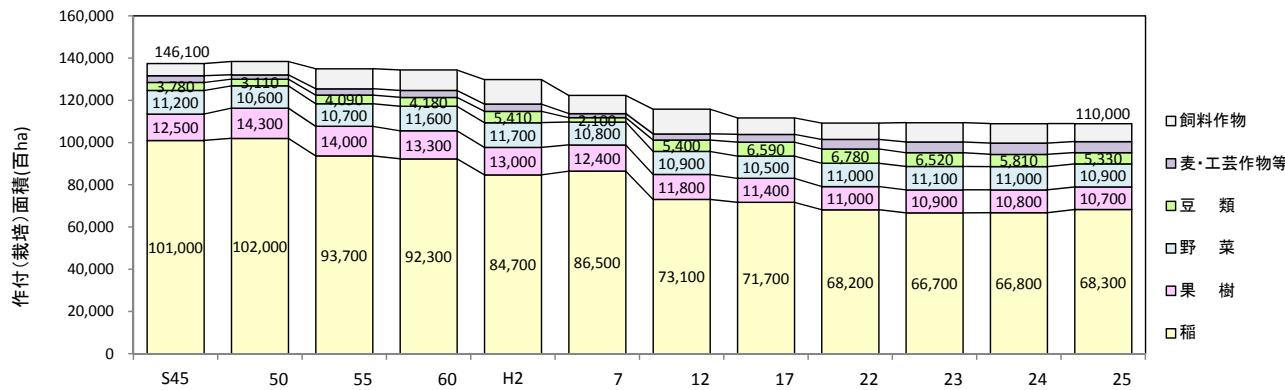
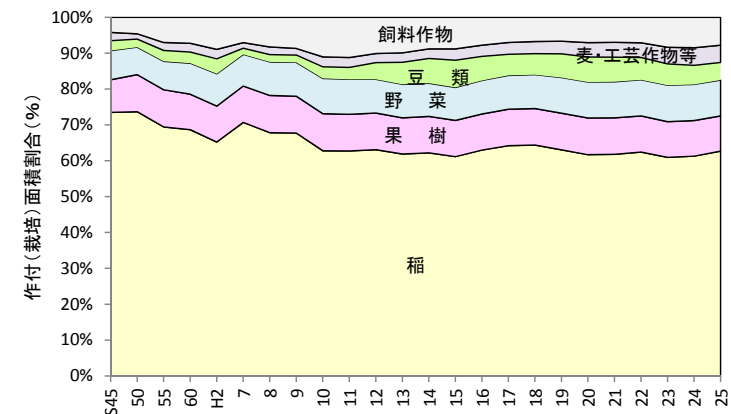


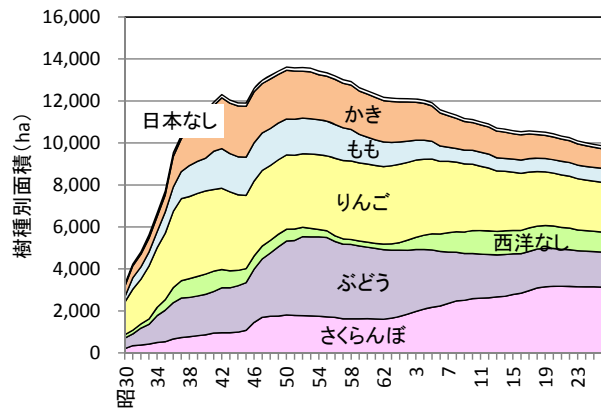
# ～山形県の果樹生産の状況、さくらんぼ品種の変遷、主産県の状況など～



■作物別の作付(栽培)面積(延べ作付けの面積)(耕地及び作付面積統計)  
 ・作物全体の作付面積は、S50からS55、S60からH17頃に減少したが、近年は微減傾向で推移している。作付面積は、稲の栽培面積に大きく左右され、生産調整の強化に伴い大きく減少する傾向にある。  
 ・果樹は、S50年代をピークに減少傾向にあったが、近年は微減(年100haの減)で推移している。  
 ・野菜は、生産調整の動向によって増減がみられるものの、変動幅が小さく推移している。

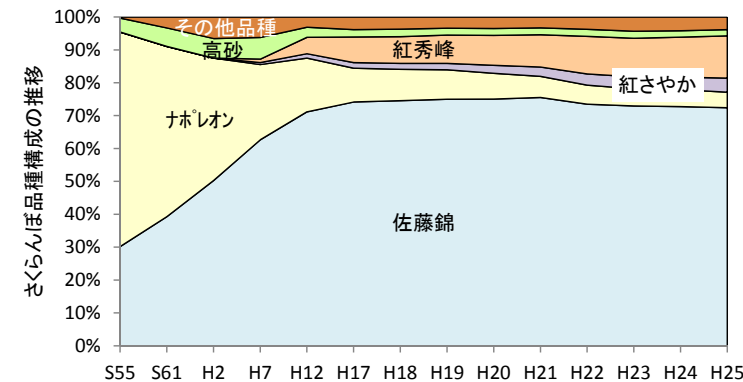
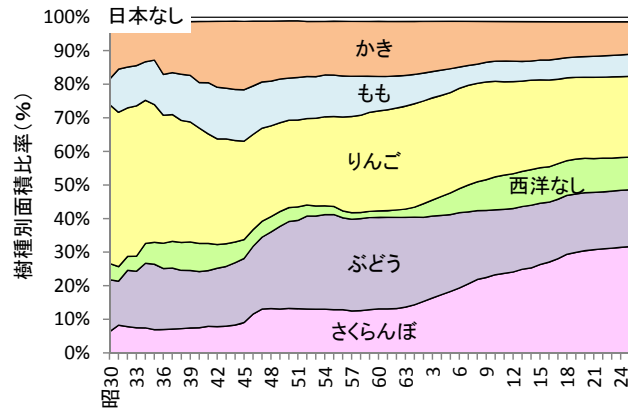


■作物別の作付(栽培)面積割合(耕地及び作付面積統計)  
 ・稲の作付割合が減少傾向にある一方、果樹や野菜等の園芸作物の割合は、横ばいで推移している。



■果樹の樹種別栽培面積の推移(耕地及び作付面積統計)  
 ・果樹全体の栽培面積は、昭和50年代前半をピークとして減少傾向となっている。なお、平成16年まではりんごの面積が最も多かったが、それ以降はさくらんぼの面積が最も多くなっている。  
 ・さくらんぼについては、ほかの樹種が、昭和50年代をピークに減少する中で、平成20年まで増加し続け、現在は横ばいで推移している。

■果樹の樹種別栽培割合の推移(特産果樹動態調査)  
 ・昭和30年代は、りんごとぶどうで全体の半数を占めていたが、その後、りんごの割合が低下し、昭和40年代から50年代後半はぶどうの割合が増加した。  
 ・昭和50年代後半から平成に入ってから、さくらんぼと西洋なしの割合が増加し、ぶどう、もも、かき、りんごの割合が減少してきた。山形県果樹栽培面積の約30%をさくらんぼが占めている。



■さくらんぼの品種構成の推移(特産果樹生産動態調査)  
 ・面積は平成20年まで伸び続け、現在は横ばい。  
 ・昭和62年までは「ナポレオン」の比率が最も高く加工向けの出荷が多い経営であったが、それ以降、生食用としての「佐藤錦」の栽培が急激に拡大し、現在ではさくらんぼ栽培面積の72%となっている。  
 ・山形県育成品種の「紅さやか」、「紅秀峰」の面積は毎年増加しており、特に「紅秀峰」は栽培面積の13%を占めており、晩生の良食味品種として更なる拡大が期待される。  
 ・一方、「ナポレオン」、「高砂」は減少傾向で、その他の品種の構成割合は横ばいで推移している。

## ■山形県の主要果樹の産出額推移

	さくらんぼ	りんご	ぶどう	西洋なし	もも	かき
H25	308	106	79	52	26	13
H24	298	88	92	42	26	13
H23	275	62	87	46	25	17
H22	233	64	88	47	27	18

## ■山形県産さくらんぼの特徴(耕地及び作付面積統計、生産農業所得統計)

・平成25年の産出額は308億円で過去最高。栽培面積、生産量、産出額ともダントツの全国第1位。販売単価は、加温栽培が多く出荷時期の早い山梨県よりやや低い。

## ■さくらんぼ主産県の生産状況【H25】

	山形県	北海道	山梨県	青森県	長野県
栽培面積(ha)	1位 3,150	2位 581	3位 359	4位 302	5位 113
生産量(t)	1位 13,500	2位 1,410	—	—	—
産出額(億円)	1位 308	4位 15	2位 34	3位 16	6位 5
統計単価(円/kg)	2,281	1,064	—	—	—

## ■東京都中央卸売市場のさくらんぼ販売単価【H25】

県別	単価(円/kg)
山形県	1,902
米国	1,273
山梨県	2,024
北海道	1,370
秋田県	1,774